

近頃の若者はなぜダメなのか 携帯世代と「新村社会」

著者 原田曜平氏にインタビュー

「ケータイはポケットにむき出しの刃物を入れてある気分です」という女子高生の言葉など、この本にはリアルな声満載ですが、若者とコミュニケーションをとるコツはありますか？

あえて挙げるとしたら、自分をさらけ出すことですかね。今の若者たちは空気を敏感に感じ取るので、こちらが壁をつくると、むこうも壁をつくる。だから、仕事が大変だとか、夫婦仲がヤバイとか、自分のことを何でも話すようにしています。同世代にはそういうコミュニケーションがなく、かえって信頼がわくのかもありません。

本のなかでも今の若者たちは過剰に空気を読むと書いていますが、そう見えない大人は多いんじゃないでしょうか。「あいつらは、大人の話の間違ったんじゃないか」というように。

「友達以外はみな風景」と社会学者の宮台真司さんが表現したとおり、空気を読み合っているのは彼らの内輪の友達だけ、ケータイでつながっているネットワークのなかだけであって、それ以外の人たちは眼中にない。輪のなかに入ればその構造がわかるのですが、外から見る大人にはわかりづらいのじゃないか。

ケータイで生じた新しい人間関係を「新村社会」と表現し、それがもたら

す最大の問題は「既視感(デジャブ)」だと書いています。

既視感とは、経験していないのにどこかで経験したように錯覚してしまう現象。これこそが若者から行動する意欲を奪い、視野を狭くする元凶だと思っ

近頃の若者はなぜダメなのか
携帯世代と「新村社会」
光文社新書 820円+税

今の20代後半以下の世代は、中学、高校のころからケータイを持ち始めた日本初の世代。この年齢からケータイを持ち始めることで、人間関係が大きく変化した。著者は7年をかけて47都道府県すべてを回り、1000人以上の若者に会い、30代以上には決してわからない、この奇妙な人間関係の謎に迫った。(2010年1月初版発行)



います。

ただ、僕はそれほど否定的に見ているわけではなく、どんな生き方であってもその人自身が幸福ならいいわけですが、問題は、狭い世界に引きこもり、鬱屈とする若者が増えていること。時代が不安定

なこともあって、すべてを「リスク」ととらえ、失敗しそうなことはやらない子が多いんです。例えば恋愛もしにくくなると言われています。ちょっとアプローチをしくじると、「見て見て、〇〇君、こんなメール送ってきた！」なんて、すぐにみんなに知れ渡るリスクがある(と過剰に感じてしまう)。だから事前にチラツ、チラツとメールで探りを入れ、確信が高くないと告白しない。そもそも人生にはリスクがつきものだよ、あんまりビビらなくていいよって、大人は言っていくべきだと思えますね。

——その一方で、ネットワークを最大限に活用する若者もいるんですね。

学生同士だけでなく、社会人とも、外国人ともつながっているような、われわれ30代以上の世代とは比べものにならないくらい広範なネットワークをもつ子も増えています。そのネットワーク力は、学歴や偏差値をも凌駕するパワーを秘めていると僕は思っています。

——読者からはどんな反響が？

大学生協でブックランキングに入るなど、多くの学生が読んでくれたことが驚きでした。タイトルに挑発されて手に取り、読んでみたら案外若者に理解あるスタンスで書かれていてよかったといった感想が多かったようです。

原田曜平氏

はらだ・ようへい ●1977年東京生まれ。慶應義塾大学商学部卒業後、(株)博報堂に入社。博報堂生活総合研究所などを経て、博報堂若者生活研究室アナリストに就任。専門は日本と中国の若者研究。2003年、JAAA懸賞論文・新人部門入選。「中国新人類・80后が日本経済の救世主になる!」(洋泉社)、「情報病」(角川書店)など著書多数。現在、日経トレンディネットにて、「若者研究の気鋭、原田曜平が斬る!」「新世代のワカモノ民族学(エスノグラフィー)」を連載中。

